



# 志布志市立潤ヶ野小学校

10月4日

## 岩根さんの投稿

戦争のむなしさを伝える紙芝居  
 図書館ボランティア 演じています。題材は、  
 岩根 賢二(元) のときわめは10才でし  
 志布志市の図書館ボランティア。終戦時に有明小  
 学校の4年生だった衛藤  
 がらの会」は、紙芝居を 麗子さんが体験を書いた  
 市内の小中学校などの上  
 潤ヶ野小で先日上演し  
 た後、児童が感想文を書  
 いてくれたそうです。3  
 年生の瀬戸山りゅうとさ  
 んは、「紙芝居を見たり、  
 衛藤さんの同級生である  
 岩満笑子さんの体験談を  
 聞いて、家族や友だちと  
 楽しくすごせなくなる戦  
 争はせつないし、たくない  
 と思っただ」とつづって  
 くれました。  
 これはがんがらの会の

定例会で、潤ヶ野小の読  
 み聞かせグループの相川  
 ひかりさんが紹介して  
 くれました。私はコピーを  
 もらい、感極まって涙し  
 てしまいました。紙芝居  
 を見て素直に「戦争はせ  
 つないだめ」と感じ取っ  
 てくれたことに感謝し、  
 「本当によかった」と心  
 から思いました。  
 これからも紙芝居を通  
 じて多くの人に「戦争は  
 絶対にしてはならない」  
 と伝えていきたいと思っ  
 ています。(志布志市)



夏休みに、「がんがらの会」の岩根さんと岩満さんが紙芝居と戦争体験の実話をしにきてくださいました。3年生の瀬戸山隆音さんがその時感じたことを作文に書き、お二人にプレゼントしました。

岩根さんが作文を読んだ時のことを南日本新聞に投稿してくださいました。潤ヶ野小の子どもたちに、とてもよい機会をあたえてくださったことに、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。